

エコ先進国スウェーデン出身 🇸🇪 LiLiCoさんも驚く

セメントの底力

映画コメンテーターをはじめ、最近ではミュージカルでも活躍するLiLiCoさん。
生まれ育ったスウェーデンではリサイクルが徹底されていたが、
セメント産業の循環型社会への貢献を知って、驚くのだった。

セメント協会副会長
平野和人氏

タレント・映画コメンテーター
LiLiCoさん

トム・クルーズを見ならって

平野 私は映画が好きで、『王様のブランチ』（TBSテレビ）の映画コーナーでLiLiCoさんを拝見しています。あのコーナーは長いですね。

LiLiCo 番組自体はもう30周年なんです。映画コーナーは24年やっています。

平野 そんなになりますか、大したものですね。土曜午前の放送なので休日がそこから始まる感じ、楽しみにしているんです。いろんなスターにインタビューされていますが、私、トム・クルーズが大好きで。

LiLiCo そうなんですか。

平野 同世代なんです。私は63で、彼はひとつ下。若い頃、リアルタイムで『トップガン』を観ました。

LiLiCo 1986年の公開ですね。

平野 私は85年入社で、観たのはまさに若い時。ところが3年前、続編の『トップガン マーヴェリック』で、彼が昔と同じことをまたやっている。体をストイックに鍛



タレント・映画コメンテーター

LiLiCo (リリコ)さん

スウェーデン・ストックホルム生まれ。18歳で来日、1989年から芸能活動スタート。2001年からTBS「王様のブランチ」に映画コメンテーターとして出演中、ほかに出演番組多数。ラジオや声優、ナレーション、俳優などマルチに活躍し、自身のブランドを立ち上げ服のデザイン、プロデュースも手がける。21年上演の「ウェイトレス」でミュージカルにもデビューし、今年再演の舞台にも立った。

えて、すごいなと思いましたよ。こちらは同世代感を勝手に感じて、リスペクトしています。日本にもしょっちゅう来てくれますね。LiLiCo 何度もお会いしてますが、トム・クルーズは本当に最後のスターだと私も思っています。小さい時に自分が覚えた感動をみんなに届けたいからスタントマンを使わない。だから、ぐうたらしないで頑張る。これはすごく大事なことで、日本って年齢で自分を止めてしまう人が多くて。女性なら、もう50歳だからこんな色の洋服は着られないとか。男性は男性で、定年でどうこうとか、自分で自分を止めちゃう人が多いので、トム・クルーズから何かを学んでくれるとうれしいですね。

星のようなセメント

平野 彼が出演しつづける限り、私も頑張りたいなと思っています。

LiLiCo 映画からは元気をもらえるし、勇気ももらえるし、やる気ももらえる。人生に役立つヒントを運んでくれる娯楽だと私は思っているんですが、セメントにも同じように毎日お世話になっていますね。平野 ありがとうございます。セメントからコンクリートができるわけですが、セメントそのものは目に触れにくいかもしれません。LiLiCo そうなんですすよね。でも、それって星ですすよね。星ってずっといるのに、昼間は見えない。

セメントも同じで、いつも踏んでるし、もたれているし、上を守られてるし。そうした壁や家だけでなく、堤防だったり、もちろん道だったりして、毎日お世話になっています。日本は島国で結構大変ですすよね、いろんな災害があるから。私が育ったスウェーデンって自然災害がないんですすよ、実は。プレートのご真ん中であって、地震もなければ、火山もない。だから堤防をセメント、コンクリートでつくるといふこともなかなかない。でも、スウェーデンのうちの別荘の棧橋がコンクリートだったんですすよ、珍しく。

平野 おお、ありがとうございます。LiLiCo だいたい棧橋は木なんですすよ、うちはコンクリートでした。だから満ち潮とか、潮の変化がすごくわかりやすくて。で、木の棧橋と違って下にもぐれないから、魚が集まって来て、すつごく楽しかったんですすよ。いつも魚にオートミール投げてました(笑)。平野 硬化したコンクリートは安定していて、魚とかが寄ってくる漁礁にもなったりしているんですすよ。LiLiCo 物が何でできてるかつ

て、すごく興味あるじゃないですか。建設現場の近くを歩いても、特にセメントが流れてくるスピードが好きなんですすよ。なんか食べられそうじゃないですか、ふにゃつとして。食べられないですけど(笑)。

平野 食べられそうというのは初めて(笑)。

LiLiCo ミキサー車から流れてくるときに、なんか気持ちいいなあって思っちゃいますすよね。立ち止まって見ますもん、邪魔なんですけど(笑)。

平野 ミキサー車から出てくるのは、セメントに砂や砂利、そして水を混ぜた状態の生コンクリートで、これは出来立てが大事ななんですすよ。

LiLiCo フレッシュ。

平野 そうです、フレッシュでないと、水と反応して固まり始めてしまいます。なので、生コンクリート工場から建設現場まで90分以内に届けるという決まりがあります。建設現場でも品質検査が行われ、それが固まって、頑丈なコンクリート建造物になるんですすよ。

LiLiCo うちの棧橋も今も健在だと思えますすよ。最後に観に行っ

たのは10年ぐらい前で、昔と同じだったんです。ちゃんと持つ。持続力がありますね。実は今日呼んでいただいたのも、私がセメントのように強い、持つっていうことかなあと思って（笑）。

スウェーデンのリサイクル

平野 いやいや（笑）。芸能界で長く活躍なのは存じ上げていますが、スウェーデンはエコ先進国じゃないですか。そうしたお話を伺いたくしてお招きしたんです。

LiLiCo スウェーデンでは1980年代からアルミ缶やペットボトルがリサイクルされていました。スーパ―に回収機があつて、1個入れるとお金が出てくる。それをお小づかいとしてあげる家も多くて、子供たちが手伝うんです。小さい時からやっているの、リサイクルが当たり前のことになるんですよ。

平野 大事ですね、身につくというのは。

LiLiCo 今も道に大きなコンテナがあつて、どんな芸能人だろうと、

そこに段ボールとかを自分で持っていく。紙も分別するし、ガラス製品も茶色と緑と透明で分けて、リサイクルに回すんですね。大体の家庭にはコンポストがあつて、生ゴミは肥料にするので、ゴミは出ないんです。どうしても出るゴミは有料の袋に入れて、自分の家の門のコンテナに置いておけば、収集してもらえ。そのゴミも本当に少なかったの、日本で道端にゴミ袋がいっぱい置いてあったのを見たときは、すごくビックリして（笑）。

平野 スウェーデンの皆さんは、そうしたことを自然体でされていて、すばらしいですね。実は我々セメント業界もリサイクルには懸命に取り組んでいるんです。LiLiCo えっ、それはぜひ知りたいですね。

セメント工場と廃棄物

平野 セメントの製造は、まず主原料の石灰石に副原料の粘土や鉄分などを混ぜ合わせ、それらを高温で焼きます。するとクリンカという塊ができるので、それに石膏

などを加え、細かく砕くと、粉状のセメントになるんです。この製造工程で大量の廃棄物を利用してします。その方法は二つあつて、第一に廃棄物を原料の一部として利用する。たとえば副原料の粘土は、火力発電所の石灰灰や都市ゴミの焼却灰などと置き換えているんです。もともと副原料は天然資源を使っていたのを、同じ成分を含む廃棄物に置き換えました。もう一つは原料を焼くときの熱エネルギーの一部として廃棄物を使う。廃材や廃プラスチック、廃タイヤなどですね。それらを原料を焼成するロータリーキルンという窯の中でエネルギー原料として使いますが、その温度は1450℃。ゴミ焼却炉よりも高いんです。

LiLiCo 1450℃ですか、昔の日記とか持つて行つていいですか。燃やしたいんですけど（笑）。

平野 一瞬で燃えてしまいますよ（笑）。超高温のため、廃棄物を使つても有害な成分は無害化されてしまい、しかもあとに何も残りません。二次廃棄物は一切出ないんです。そういう意味で、セメント工場は究極のリサイクル工場なんですよ。

LiLiCo 工場は日本にいくつあるんですか。

平野 26工場あつて、窯の数は47になります。セメントの主原料の石灰石は北海道から沖縄まで日本全国で採れるので、工場も全国にあるんです。そのため、各地で廃棄物処理に貢献していることになります。セメント1トンつくるの

一般社団法人セメント協会副会長

平野和人（ひらの かずと）氏

ユニーバー
UBE三菱セメント株式会社
代表取締役社長

神奈川県生まれ。1985年三菱鉱業セメント入社。2022年UBE三菱セメント発足と同時に副社長。25年社長、同年セメント協会副会長。



に、今では廃棄物を約480kg使っています。年間では約2200万トン、これは日本の廃棄物の5%にあたるそうです。

LiLiCo 海外よりも日本の方が進んでいるんですか。

平野 廃棄物の利用に関しては、日本は非常に優れた取り組みをしています。技術力がありますし、多くの廃棄物が利用されており、埋立地の延命や天然資源の節約など、環境負荷の低減に大きく貢献しているんですよ。また、原料の石灰石は国産100%で、そうしてできたセメントがコンクリートになるわけです。

セメントは 目に見えないヒーロー

LiLiCo セメントがなかったら、ビルも建たないじゃないですか。ダムもそうですよね。

平野 そのとおりです。

LiLiCo でも、今のマンションとか、丸見えみたいな壁なんかをつくってますよね。

平野 そうした建物でも一番大事

なのは基礎なんですよ。基礎に重量物であるコンクリートを使わないとすぐに倒れちゃうんで、そこに大量にコンクリートを入れてるんです。目に見えないところで、セメントが活躍しているんですよ。

LiLiCo 目に見えないものがヒーローじゃないですか。

平野 うれしいです、そう言っていただけで。

LiLiCo 本当のヒーローは空飛ばないし(笑)。なので、目に見えない部分が大事ですよ。私、この6月にネパールに学校を作ったんです。そこでもセメントにお世話になってます。

平野 ネパールのどのへんですか。

LiLiCo バジャン地方というネパールの西端の方です。学校の一棟、4つの教室をLiLiCoブロックということで、ポケットマネーを貯めて、貯めて。地震がある国なので、すごい耐震性のある、今後何かあったら避難所になるんじゃないかという建物で、その壁がセメントです。

平野 地震でいうと、東日本震災で出た大量の災害廃棄物を、セメント工場で受け入れたんですよ。

東北地方の工場を中心に約110万トン処理しました。震災からの復旧・復興の加速に、セメント工場は大きく貢献できたものと自負するところです。それ以降の震災、水害でも同様で、今後、万一の災害のときも、各地の工場に対応できるように備えているんです。セメント工場は、他産業では処理が困難な廃棄物も積極的に処理しており、社会インフラを支えるとともに、非常時の対応にもリサイクルで貢献する力強い存在なんです。

LiLiCo 私、ずっとお話を伺っていて、これだけセメントは役に立っているんだから、それをPRするショートフィルムを作ったらいいんじゃないかと思いました。「ショートショートフィルムフェスティバル&アジア」という映画祭があつて、私、アンバサダーなんですけど、「BRANDED SHORTS」という部門があるんです。企業がショートフィルムを作るんですが、コマーシャルほど押しつけがましくなく、たとえばセメントをテーマにして、こんなにすごいんだよっていうことを物語の中に入れるんですよ。

平野 ショートフィルムですか。

LiLiCo 別に「セメント、セメント、セメント」って言わなくてもいいんですよ。なんか固い絆で私たちはつながっているんですよっていうことをやり取り入れながら、ラブストーリーになってたりとか。セメントは当たり前の存在すぎて、本当に目立たないヒーローだと思います。だから「目立たないヒーロー」というフィルムを作ったらどうですか(笑)。

平野 それ、おもしろいかもしれない(笑)。

LiLiCo 次の開催まで1年ぐらいいありますから、セメント会社の中で脚本のコンテストをすればいいんですよ。すばらしいストーリーになるかもしれない。そのフィルムが話題にならなかったら、次を考える。トム・クルーズですよ、自分で自分を止めない。セメント・ラバーの私としても、どうしたら広まるか、考えます。

平野 あきらめないことが大事ですね。今日は勇気づけられました。ありがとうございます。

LiLiCo 私も、めっちゃ楽しかった。ありがとうございます。